

CO2の基準値

ガス体	許容範囲	推奨値	目標値
二酸化炭素	5000ppm	1500ppm	1000ppm

ACGIH、日本産業衛生学会許容濃度部会の勧告値、
日本公衆衛生協会の公害問題に関する答申（1956年）、
日本薬学会協定試験法における普通室内空気試験成績判定基準、
文部省学校環境衛生基準を勘案

二酸化炭素（CO2）の影響

～人間は1時間に6畳間程度の空気が必要～

居室では、人の呼吸、喫煙、厨房ガスレンジ、直接熱風放出型ファンヒーター等により影響を受けやすく室内のCO2濃度が1000ppmになると、思考力、集中力が減少します。

空気中のCO2濃度	有毒ガスが人体に作用する時間
250-350ppm(1956年)	大気中における通常濃度(2021年) 415ppmに上昇
415-1000ppm	換気が十分実施されている屋内の通常値
2000-5000ppm	換気の悪い部屋 頭痛、眠気、倦怠感、注意力散漫、心拍数の増加、吐き気の発生
5000ppm以上	作業場所としての限界値（8時間-TWA）
>40000ppm以上	酸素障害誘発、脳へのダメージによる昏睡、最悪死に至る